# 平群町教育長だより

No. 3　2025.12.23 発行
文責：教育長　上田　薫

## 【二学期回顧】

猛暑で始まった二学期、１０月の後半からようやくそのピークが過ぎ、小中学校では運動会や体育大会が秋晴れのもと開かれました。子どもたちが元気に駆け回ったり見事な集団演技を披露したりと、見る人の心を夢中にさせることの連続でした。どの学校でも、たくさんの保護者の方々が参観してくださり、子どもたちや学校に、あたたかな声援を送ってくださいました。本当にありがとうございました。

１１月半ばには、「生駒郡小学校音楽会」が斑鳩町にて開催され、本町３校の５年生が合唱及び合奏を披露してくれました。３校とも、この日に向けみんなで心合わせて練習した成果を発揮し、大きな歌声、見事な合奏、自分たちの持ち得る「力」をすべて出しきった素晴らしい出来栄えでした。

ご紹介したのは、ほんの一部です。本町の子どもたちが、先生方とともに、毎日を元気に有意義に過ごしてもらいたいと、日々願っています。

禅の教えに「日日是好日（にちにちこれこうにち）」という言葉があり、その意味は「特別な日だけが良い日なのではなく、すべての日がかけがえのないものである」と、調べた文献では紹介されています。（※この読み方や意味の解釈は他に諸説あるようです。）

子どもたちの成長は、毎日の積み重ねによることに他なりません。上手くいく時もあれば、失敗して落ち込む時も。自分が経験するすべての現実にしっかりと向き合い、社会に出るための「力」をコツコツと育ててもらいたいと願っています。

## 【中学校部活動地域移行について】

これまでもお伝えの通り、現在、令和８年度４月からの、休日の中学校部活動指導者の確保を最優先課題に据え取り組んできております。その結果、現平群中学校教員の中から「兼職兼業制度」を運用し地域の指導者となることを希望する方や、町内外の各種競技・種目の専門の方など、現在設置されている全部活動の休日指導者確保の見通しが、ようやく立つところにまできました。そこで、現中学校１・２年生や現小学校６年生の保護者対象に説明会を行い、子どもたちや保護者の方々が抱いておられるであろう様々な不安や疑問等の解消につながるよう働きかけています。

尚、説明しております主なポイントとしましては、次の３点です。

①　平日の活動は現行通り学校部活動として継続し行うこと。

②　次年度から３種目（男女バスケットボール部、サッカー部、ソフトテニス部）については、中

学校の部活動としては募集を行わないこと。

③　休日の指導者への謝金代や傷害保険料代等として、毎月の「受益者負担（保護者負担）」が必要となること。

（②の理由）

・　中学校生徒数の減少傾向に伴い部活動数の適正規模化を図るため。

・　町内に各競技や種目の専門的な技能等を有する指導者からの指導を受けられるクラブや教室等があり、ここでの活動が可能であるため。（これが「地域移行の特徴」でもあります。）

尚、この事に関する詳細（保護者説明会動画等）につきまして、町教育委員会ホームページに掲載をさせていただいています。是非とも、そちらの方もご覧ください。

## 【こども園児「ＴＨＥ 感性」～生活発表会作品展～】

ゆめさとこども園、はなさとこども園の作品展に行ってきました！

原点は「感触」。０歳児にとっては、手にするもの、肌に触れるもの、目にするものが初めての感触であり感覚です。「感じたままを、身体全部を使って表現する日々を積み重ね〝興味・関心〟へと広がっていきます！」と先生方が、嬉しそうに園児の作品を紹介しながらお話しをしてくださいました。

そして、１歳児さんから５歳児さんの作品についてですが、「はなさとこども園」では、毎日、廃材（お菓子の箱やカップ等）や素材（画用紙や折り紙、粘土等）を使っての遊びを通して身につけていった「力」を発揮し今回の作品が出来上がりました。「ゆめさとこども園」では、絵本に出てくる動物たちや恐竜、大好きなのりもの、かわいいおばけなど、子どもたちのお気に入りを一つ一つの形に作り上げていきました。

また、両園とも「こんなおうちがいいな、・・」「こんな動物がいたら・・・」や「うみのせかいはこんなんだ・・・」「もりやぬまにはこんなものがいるよ・・・」など、年長さんならではのイメージをいっぱいふくらませたり、みんなで力を合わせて一つの大きな作品を作りあげたりと、どちらも広々としたお部屋いっぱいに子どもたちの力作が展示されていました。

そして、どの子も作ることを楽しみ、出来上がることに喜びを感じるなど、成長を遂げていっているその「証」を、担任の先生方が一人一人ていねいにコメントされていました。読んでいると、どの園児も、先生方からのたっぷりの愛情に包まれ、日々生活を送ってくれている様子が浮かびあがってきました。

## 【子どもたちに伝えたいメッセージ　～「奇跡の一本松」が問いかける事～　】

今年の夏、念願だった「東北への旅」が叶いました。東日本大震災以後、是非ともこの地を訪れ哀悼の意を表したい、そして復興に向かって歩んで来られている地元のその様子を目に焼き付けたい、と思いながら今日に至ってしまいました。

旅の二日目に、岩手県陸前高田市にある「津波復興祈念公園」を訪れました。園内の「津波伝承館」では、被災した実際の物や当時の様子をとらえた写真・映像、被災者の方々の声、また地元役場・消防団・警察・自衛隊等の方々が住民の命を守る為に決死の覚悟で懸命に尽力された行動の記録映像等、４つのゾーンで展示されていました。「歴史・事実を知り、教訓から学び、復興に向けて進む」ことの必要性とその意味を、来館するすべての人に語りかけています。私も身が引き締まる思いで見学させていただきました。

その後、伝承館を出て太平洋を望む方向に進むと、これまで見たことの無い、高く・分厚い「防波堤」がそびえていました。堤に立ち、眼前に広がる太平洋を見ながら、「二度と人命や人々の暮らしが脅かされることの無いよう守って欲しい」と心の底から祈りを捧げました。

そして、防波堤上を先に進むと「奇跡の一本松」の姿が目に入ってきました。樹齢１７３年、高さ２７．５ｍもある大木でした。あの時（２０１１年３月１１日)、高さ最大１７ｍに及ぶ津波が押し寄せ、この松を含む７万本の松林が一瞬にして全壊に追い込まれました。まさに奇跡的に残ったのが、この松わずか一本だけでした。残念ながら震災の翌年（2012 年）５月に、すでに枯れてしまっていることが確認されたのですが、みんなの「復興のシンボル」として保存することとなり、「モニュメント」として、訪れる人に津波の恐ろしさと命の尊厳を訴え続けています。

ここを訪れた時に見えた太平洋はとても穏やかで美しく水平線まで伸びていました。私は、この地で不思議な感覚に包まれました。それは、自分がこうしてここを訪れることが出来ていること、自然の景観の美しさに対し素直に心が洗われていること、こうやって生き元気に生活させてもらえていることに心から「感謝」せねばならないこと、そして、「他人（ひと）のために自分が出来ること」に全力で取り組まねばならないという使命感にかられたことでした。

今月初旬（12/８）も、青森県東方沖を震源とする最大震度「６強」の地震が発生し、人的被害や建物の損壊等が起こりました。いつ起こってもおかしくないと言われている「南海トラフ地震」等の巨大地震発生に対し、自分の命を自分で守る行動を心がけることや万一への備えを必ずしておくことなど、強い危機意識を持つことが求められています。

「ここは、大丈夫・・・」この言葉に全く何の根拠も保障もありません。

「奇跡の一本松が、なぜ残ってくれたのか」私たちはこの「存在価値」を絶対に忘れてはならないと思います。

そして、未来にしっかりと伝え続けていく「使命」が託されていることを、心に刻み込まねばならないと考えます。

## 特集記事　～取材：平群中学校〝探究学習〟～

一昨年度から、平群中学校は「探究学習」に取り組んでいます。

探究学習とは、子どもたちが自らの課題を見つけ、調べ、考え、まとめ、発表する学習スタイルです。「なぜ、『探究学習』が求めらているのか」ですが、それは、目の前の子どもたちが今後歩んでいこうとする、グローバル化や技術革新が進む『予測困難な社会』では、「自ら問いを立て、解決策を見つけだす力が不可欠である」と考えられているからです。そこで、令和３年度からの現行「学習指導要領」に基づき、教科書での学びや知識の暗記だけではなく、それを活用して主体的に解決する能力を養うことを目的とした取組が進められています。

さて、今年度の「探究学習」の取組（全学年）の様子が、今年９月の文化祭において発表されました。一部分ですが紹介いたします。

これまで発表と言えば、「〇〇へ行ったこと」について、見てきたことや調べたことの発表形式が主流でした。しかし・・・

冒頭でも記載の通り、平群中学校では、この学習を一昨年度から取り組んでおり、どの学年においてもこの学習を進めていくための過程を〈見つめる〉〈調べる〉〈深める〉〈広げる〉の４つのパートに分けて、進めています。

例えば、３年生が発表した「沖縄での修学旅行」を主題にした取組では、次のような構成で進めてきました。

①〈見つめる〉：私たちは修学旅行で沖縄に、何を目的として行くの？
②〈調べる〉：今の日本は平和なのだろうか？今の沖縄は平和なのだろうか？答えは現地で確認！
③〈深める〉：安心して暮らせる社会ってどんな社会なのだろう？
④〈広げる〉：私たちが安心して暮らせる社会（自分たちで見つけてきた・考えてきた「平和」）を実現するために、これからできることとは何だろう？「探究→探求へ」

お気づきだと思いますが、すべて「？？？」がついています。実は、この探究学習には「正解」はありません。沖縄での修学旅行の目的とは？海の美しさ・空の雄大さ・生息する動物や植物・おいしい食べ物・平和はどこに・・・つまり自分が何を探したいか、何に関心を抱くかは一人一人の子どもたちの考えの中にあります。その探し物を見つけるために、現地を訪れ、自分の目で見て確かめたり、現地の人から直接話を聞いたりして、自分の思考をさらにその先へと広げていきます。

「文化祭の各学年の発表テーマ」は次の通りです。

１年生：春の校外学習で訪れた「奈良公園」から「春日奥山原始林の保存」
２年生：春に訪れた「大阪・関西万博」から「ＳＤＧｓを考える」
３年生：上記の通り、「沖縄戦の生きた英雄（ヒーロー）たち」

〈当日の発表から〉

◆　１年生

訪れる前に、「現地はゴミが散乱し人の手によって荒らされているのではないか？」という仮説を立て現地に行き確認した。その結果、「そのような状態は全くなく、自然は守られていた。」

しかし、新たな疑問が・・・。「コケが大量に生息し、緑のじゅうたんを敷きつめたような状態になるはずが、茶色の地面がむき出しになってしまっている場所が多く見られた。」→「なぜ？？？」

原因は、奈良公園内にいる「シカ（鹿）」であることがわかった！

→ 新たな探究が → 「自然の保護とシカの共存はどうあるべきなのだろう？」

◆　２年生

「いったい万博はなぜ開催されたのか？」という疑問究明に挑戦した。

調べてみると「地球規模の課題解決を図るため、世界の英知が集まり、新たな技術や文化を発信する場として開催された！」

実際にその様子を追求したい！→ベルギー館に入った！この国は「水」をテーマに表現、人間の再生を目的に、病気の予防や回復、寿命を延ばす最先端技術が紹介されていた！

残念だったのは、予約が取れないと中に入れないこと。もっとたくさんの国々をのぞいてみたかった・・・

→ 新たな探究が → 「パビリオンを見て回っていくうちに、こんなところで仕事をしてみたい！という願望が湧き出てきた。」いいぞ、「将来への展望」にまで広がっている！

◆　３年生

行く前、沖縄への旅は「観光旅行だと考えていたが・・・。」実際に足を運び現地の方から話を聞いていくと、「平和や戦争について、様々な方向性より考えることができていて、平和を実現するための捉え方が、行く前とは比べ物にならないぐらい大きなものとなって帰ってきた。」

戦争当時、ガマの中にいた人々は、なぜ、集団自決をしたのだろう。生きることの選択を消しさらねばならなかったのはなぜだったのだろう？

→ 新たな探究が → 「戦争の悲惨さを伝えたい。」私たちが伝えていかなければならない相手とは「後輩たちだ！」「そうだ、後輩たちにバトンを渡そう。」 → 沖縄に行くからには、沖縄の悲惨な歴史や現地の方々の思いを知ってから行って欲しい！」

〈他学年の発表を聞いた感想〉

○　これまで発表と言えば旅の思い出や、その場所の説明が多く、特にクイズ形式で答えるパターンが主流だったが、今回の１年生の発表はそうではなく、自分たちの感じ方や考えを軸にした説明や話が主で、話に引き込まれていった。

○　話の内容がわかりやすく、わくわくする感じで聞いていた。映像を見ているようだった。

○　単に旅行記ではなく、戦争の残虐さや平和の尊さ、何より平和を真剣に考え、平和を実現するためには何が必要なのかを自分の言葉で伝えていたことに驚いた。

○　話しぶりがさすがに上手で、やっぱり３年生だと思った。
○　「あなたたちだったらどうしますか」「どのように考えますか？思いますか？」と常に自分事として捉えて投げかけていた。こうでないとと思った。

〈今回のまとめ〉

今回のまとめとして、子どもたちに、「探究学習」を通して感じたこと、気づいたこと、思ったことを綴ってもらった中から、３年生の生徒の考えを掲載させていただきます。

テーマは「探究学習の醍醐味や面白みを教えてください！」です。

「探究は答えがないので、自分の考えを好きに表現でき、人に伝えられるところが醍醐味だと思います。他人（ひと）への伝え方によっては、聞き手の受け取り方が変わるのも面白いところだと思います。探究学習を通して、一人ひとりの考え方が異なるけれど、そのことを理解して一つの意見としてまとめて発表することの楽しさを知りました。探究学習をより深く、楽しいものにするには、怖がらずに自分の意見を言い、仲間とお互いを認め合うことが大切だと思います。」

どの子どもも、探究学習を通して、考えることや疑問を抱くことが、さらに次へと発展させるために欠かせないことを学びつつあります。

とても意義のある学習です。

今後に大いに期待し、子どもたちの益々の成長ぶりを楽しみに見続けていきたいと思います。